

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書	
平成 30 年 6 月 8 日	
愛 知 県 知 事 殿	
提出者	
住 所 安城市昭和町 19 番 10 号	
氏 名 新日本化学工業株式会社	
代表取締役 中村哲久	
電話番号 0566-76-5171	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 12 条第 9 項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名 称	新日本化学工業株式会社
事業場の所在 地	愛知県安城市昭和町 19 番 10 号
計画期 間	平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
1 事業の種 類	32 : その他の製造業
2 事業の規 模	売上 50 億円
3 従業員 数	115 人

④産業廃棄物の一連の処理の工程	有機汚泥（廃水汚泥）	発酵処理	肥料として再利用
	無機汚泥	埋立て処理	
		焼却処理	
	動植物性残さ	発酵処理	肥料として再利用
		選別、焼却	
	混合物	選別、破碎、再生利用、焼却、埋立て処理	
	理	廃プラ	選別、破
	砕、再生利用、焼却、埋立て処理		
	廃酸・廃油・廃アルカリ	エマルジョン後燃料として再利用	
		分級後原料として再利用	
	ガラス、コンクリート、陶磁器屑	選別、破碎、埋立て処理	

（第2面）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

（管理体制図）

生産本部		
	本部長	産業廃棄物統括責任者
業務部環境課		
	担当課長	産業廃棄物管理責任者
		特別管理産業廃棄物管理責任者
		産業廃棄物処理施設技術管理者

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

1 現状	【前年度（平成 29 年度）実績】 別紙①の通り		
	産業廃棄物の種類	—	—
	排出 量	— t	— t
	（これまでに実施した取組） ・無機汚泥の排出抑制できる新精製設備（膜ろ過法）導入 ・排水設備は活性汚泥法から嫌気性発酵法の排水処理設備を稼働させ汚泥量が削減できている		
	【目標】		
②計画	産業廃棄物の種類	—	—
	排出 量	— t	— t

		(今後実施する予定の取組) ・現在排水設備は活性汚泥法にて一部処理している。更に嫌気発酵法の稼働割合が増加し発生する汚泥が減少する。
産業廃棄物の分別に関する事項		
	①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 紙類(クラフト袋)を再生利用・廃プラ(1kLコンテナ)の再利用・鉄屑(ドラム缶)再利用・廃油(オイル)再利用・プラシヤーレを焼却
	②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) なし

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
1 現状	【前年度（平成 29 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	－	－
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	－ t	－ t
	（これまでに実施した取組） 有機汚泥の肥料化 動植物性残さの飼料化		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	－	－
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	－ t	－ t
	（今後実施する予定の取組） 再利用できる業者に委託する		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
1 現状	【前年度（平成 29 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	－	
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	－ t	－ t

		自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	－ t	－ t
		(これまでに実施した取組) 実施していない		
	②計画	【目標】		
		産業廃棄物の種類	－	－
		自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	－ t	－ t
		自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	－ t	－ t
		(今後実施する予定の取組) 実施する予定はない		

(第 4 面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
1 現状	【前年度（平成 29 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	－	－
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	－ t	－ t
	(これまでに実施した取組) 実施していない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	－	－
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	－ t	－ t
	(今後実施する予定の取組) 実施する予定はない		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

1 現状	【前年度（平成 29 年度年度）実績】 別紙②のとおり		
	産業廃棄物の種類	—	—
	全処理委託 量	—	—
	優良認定処理業者への 処理委託 量	— t	— t
	再生利用業者への 処理委託 量	— t	— t
	認定熱回収業者への 処理委託 量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者 への処理委託 量	— t	— t
	（これまでに実施した取組） ・ 再生利用業者への処理委託を行い、最終処分量の低減をはかる。		

(第 5 面)

②計画	【目標】 別紙②のとおり		
	産業廃棄物の種類	—	—
	全処理委託 量	—	—
	優良認定処理業者への処 理委託 量	— t	— t
	再生利用業者への 処理委託 量	— t	— t
	認定熱回収業者への 処理委託 量	— t	— t

		認定熱回収業者以外の熱 回収を行う業者への処 理委託 量	－ t	－ t
		(今後実施する予定の取組) ・ エネルギー削減のため動植物性残さの乾燥を減らし、再生利用の 促進を図る。		
※事務処理欄				

(第 6 面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が 1,000 トン以上の事業場ごとに 1 枚作成すること。
- 2 当該年度の 6 月 30 日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)① 欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)② 欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④ 欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第 6 条の 11 第 2 号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 15 条の 3 の 3 第 1 項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が 3 以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物の排出抑制に関する事項 別紙①

産業廃棄物の種類	前年度(平成29年度)実績 t/年	目標(平成30年度) t/年
汚泥	2,626	2,500
動植物性残さ	4,064	4,000
廃プラ	118	115
紙屑	37	35
木屑	19	18
ガラス・陶磁器屑	1	1
がれき類	12	10
金属屑	8	7
廃酸	3.6	0
廃油	0.05	0
腐食性廃酸(特管)	0.79	0
特定有害廃PCB等(特管)	0.00	0.051
合計	6,889	6,686

産業廃棄物の処理の委託に関する事項 別紙②産業廃棄物の処理の委託に関する事項 別紙②

表 現状(平成29年度)表 現状(平成29年度)

産業廃棄物の種類	平成29年度 t/年t/年	平成29年度 t/年t/年	平成29年度 t/年t/年	平成29年度 t/年t/年	平成29年度 t/年t/年	平成29年度 t/年t/年	平成29年度 t/年t/年
汚泥		2,626	1,141	2,112			
動植物性残さ		4,064	990	4,036			
廃プラ		118	118	13			
紙屑		37	37	3			
木屑		19	19				
ガラス・陶磁器屑		1	1				
がれき類がれき類		12	12				
金属屑		8	8	8			
廃酸		3.6	3.6	0.5			
廃油廃油		0.50	0.50	0.2			
腐食性廃酸(特管)		0.79	0.79				
特定有害廃PCB等(特管)		0.00					
合計		6,890	2,331	6,173	0		0

* 再生利用は中間処理後肥料化する場合を含む

表 計画(平成30年度)表 計画(平成30年度)

産業廃棄物の種類	平成30年度 t/年t/年	平成30年度 t/年t/年	平成30年度 t/年t/年	平成30年度 t/年t/年	平成30年度 t/年t/年	平成30年度 t/年t/年	平成30年度 t/年t/年
汚泥		2,500	1,145	2,200			
動植物性残さ		4,000	1,000	3,950			
廃プラ		115	115	15			
紙屑		35	35	14			
木屑		18	18				
ガラス・陶磁器屑		1	1				
がれき類がれき類		10	10				
金属屑		7	7	7			
廃酸		0	0				
廃油廃油		0	0				
腐食性廃酸(特管)		0	0				
特定有害廃PCB等(特管)		0.051	0				
合計		6,686	2,331	6,186	0		0